

評価調書(県総合評価調書)

【評価の基準】

- (1) 多様化・高度化する県民ニーズや社会経済情勢等の変化への的確な対応
- (2) 厳しい財政状況を踏まえた簡素で効率的な事業展開
- (3) 県の財政的、人的関与の適正化による主体的・機動的な団体運営
- (4) 役職員体制の適正化による自律的かつ効率的な組織運営
- (5) 積極的な情報提供の推進による団体に対する県民の理解と信頼の促進

1. 評価結果(個別観点)

観 点	評価内容	評 価
団体のあり方	公益財団法人しまね海洋館は、島根県立しまね海洋館の設立目的を十分理解した上で管理運営にあたっており、質の高い自然学習の場、機会を県民等へ提供している。また、開館前から業務に携わり、管理運営に関する専門性、ノウハウを備えていることに加え、県との連携も十分に取れているため、安定的運営体制と認められる。	A
組織運営	効率的な人員配置と組織運営を行い、管理施設や飼育生物の増加及び効果的な企画広報に努めている。また、公益財団法人日本動物園水族館協会主催の研修会をはじめとする各種研修への積極的な参加を通し、人材育成を推進している。 県の人的関与について 平成16年度までは知事が理事長を務め、職員派遣も行っていたが、指定管理者制度を導入した平成17年度以降は、直接の人的関与はなく、現在は評議員に2名が就任しているのみである。	A
事業実績	平成27年度入館者数は目標380,000人に対して373,833人(98.4%)となった。入館者数は、近年、台風接近によるイベント中止などの外部要因により減少傾向であったが、各種イベントの開催や展示施設のリニューアル、新パフォーマンス「幸せの縁ミラクルリング」の披露など、施設の魅力化に取り組んだ結果、対前年度比101.3%、4,809人増、となり、3年ぶりの増加に転じた。	B
財務内容	平成27年度の経常収支は、約16,510千円の赤字となったが、昨年度の約95,785千円の赤字から大幅に改善されている。経費削減を図るため、省エネ対策や広告宣伝方法の検討等、経営改善にむけた努力を続けている。また、経常収支は赤字となっているが、当面の安定運営に必要な資産を保有し、財務の健全性は確保されている。 県の財政的関与について 第3期指定管理期間開始(平成27年度から平成34年度のまでの8年間)となり、指定管理料の見直し(増額)を行った。	A

評価の目安 A:良好である B:ほぼ良好である C:やや課題がある D:課題が多い

2. 総合評価

団体の経営評価報告書における総合評価について	課題の内容等	今後の方向性	評価コメント
	施設・設備の改修やPR強化など集客対策を進める必要がある。	計画的な改修やより効果的なPR活動の検討を行う。	施設の魅力化向上により、入館者数増および収入増が期待でき、より安定的な運営を行うことができるようになる。
総合コメント			
平成27年度入館者数は、対前年度比101.3%、4,809人増、と3年ぶりの増加となった。展示施設のリニューアル、各種イベントの開催など入館者数増加に向けた取組を実施している。また、教育事業や地域交流事業など各種事業にも積極的に取り組み、自然学習の場・機会を県民に提供している。今後、老朽化が進む施設・設備の計画的修繕やPR強化などの集客対策を行うとともに、各種イベント、特別企画展の開催など施設の魅力向上に向けた取組をさらに実施していく必要がある。			